

いのち

第68号

ご自由にお持ちください

人に尽くし、研鑽を積み、信頼と喜びを明日へ



井上記念病院

生理検査科の仕事



私たち生理検査科には、臨床検査技師、受付担当スタッフが在籍しています。

生理検査というと何をしているかよく分からないと思いますので少し仕事内容を紹介したいと思います。

生理検査科は主に患者様や健診受診者様と直接関わりのある検査を担当しています。

内容は、外来と健康管理センターの心電図、肺機能、動脈硬化検査(ABI検査)、超音波(エコー)検査、また外来採血や尿検査、睡眠時無呼吸検査等です。その中でも今回は超音波検査の最新状況を紹介させていただきます。

超音波検査は、外来では腹部、心臓、頸動脈、乳腺、甲状腺を、健診では腹部、乳腺、頸動脈を行っています。現在、外来3台、健診3台の超音波装置が稼働していますが、2024年末に外来でGE社製のものが1台、健診はFUJI FILM社製のものが2台更新されました。日々、医療機器は進化し続けていますが、新しい機器が導入されると、その進化が実感されます。スクリーンはどんどん薄くなり、プログラミングも進化し、できる検査内容も増えますが、なんといってもいちばんは紹介したいのは超音波画像が、感動するほど鮮明になったということです。画像が鮮明であるということは、正確な超音波診断にもつながります。もちろん、検査をする側もそれに対応すべく、日々技術の向上にむけて精進しております。

いろいろな患者様と接する機会の多い生理検査科ですが、これからもスタッフ一丸となり、患者様に携わっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。



検体検査科のご紹介



～見えないところで、あなたの健康を支えています。縁の下の力持ち～



検体検査科って？

検体検査科では、血液や尿、細胞などを調べて病気の早期発見・診断・治療のサポートをしています。医師が適切な治療を行うために、正確でスピーディな検査を行っています。

どんな検査をしているの？



血液検査

赤血球や白血球など血液の成分を調べ、貧血や白血病などを見つけます。



生化学検査

血液中の糖や脂質、肝臓・腎臓の働きなどを測定。生活習慣病の早期発見にも役立ちます。



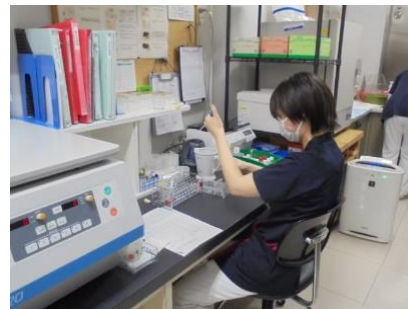
免疫検査

甲状腺機能の異常や腫瘍マーカー、感染症（コロナ含）の有無を調べます。



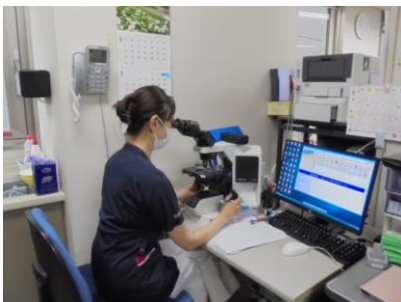
輸血検査

血液型を調べたり、安全に輸血できるかをチェック。命を守る大切な検査です。



病理・細胞診検査

顕微鏡で細胞や組織を観察し、がんや炎症の有無を調べます。当院には国際細胞検査士が在籍し、専門性の高い検査を行っています。



患者さんへひとこと

検査は、病気を“早く見つける”ための大切な一歩です。私たちは、正確な検査であなたの健康をしっかり支えます。これからも安心・信頼の検査をお届けします！

スタッフ紹介

当科では、専門知識と経験を持つスタッフがチームで検査を行っています。

臨床検査技師：8名（細胞検査士2名含）
検査助手：1名

医療介護通信

乳がん時代の今、私たちにできること

井上記念病院乳腺外科部長
乳がん患者会「ももはな会」代表

椎名 伸 充

日本では2人に1人ががんに罹患する時代となっておりますが、特に乳がんは年間10万人に迫る状況であり、女性の乳がん罹患の第1位となっております。乳がんの原因は女性ホルモンであるエストロゲンが深く関わっており、

クが高くなります。乳がんの発症予防として肥満にならないこと、習慣的な運動を行うとともに飲酒量を減らすことが有効であると考えられています。外来では「乳がんは若い人になる病気」と思っていました。」としばしば高年齢の方からのお声を聞きます。確かに乳がんは40〜60歳代に多いのですが、高齢の方も増えていきます。さらに現在高齢者の乳がん死亡率は年々悪化しております。これは罹患率が増加しているのと、検診の普及が不十分である可能性、また治療に対し身体的、心理的に受け入れ難い方が多く、その発展の恩恵を受けにくいことが要因として考えられます。

得られれば、日本の乳がん死亡率はさらに改善するのではないかと私は思っています。現在、乳がん治療は進行度だけでなく遺伝子や免疫応答レベルで個別化されていますが、そこに患者さんの社会的状況や価値観も織り混ぜて進めていきます。また乳がんを治すための治療と治療の影響を和らげる医療（サポーターブケア）の両輪が上手く機能して成り立ちます。例えば乳がん治療において最も負担とされているのが抗がん剤治療における「脱毛」ですが、当院では全国でも早期に「頭皮冷却療法」を導入し、脱毛予防に取り組んでいます。導入後は非脱毛で乳がん治療を終える患者さんも増えてきており、医療の進歩を感じています。

また当院の患者会「ももはな会」は乳がん患者と家族、医療者が参加し、乳がんに関する勉強会や情報交換の場となっております。会では笑顔も見られ、交流を通して前向きに過ごさせるようになったとお声もいただいております。これらの取り組みが乳がん患者さんの早期社会復帰のサポーターとなることを願っています。

すぐに予防に取り組むこともできます。生活習慣と乳がんは様々な面で関わっており、特に肥満と運動不足、飲酒は乳がんのリスクとなります。近年、日本人女性のBMI30以上となる肥満の割合は増えておりますが、閉経後でBMI30以上となると乳がんリスクは6倍に増加します。また日本人の平均歩数はこの20年で約20%も低下していますが、運動不足も乳がんリスクを上昇させます。

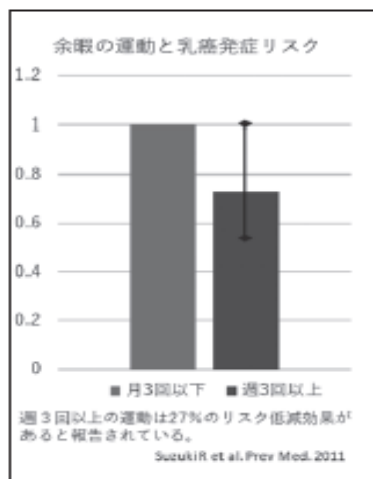
検診にて発見可能な2cm以下の早期乳がんは比較的身体の負担の少ない治療で済み、10年生存率は95%以上の可能性があります。私はずいぶん高齢の方も積極的に乳がん検診に参加していただきたいと思っています。早い段階で発見して、より負担の少ない治療でも根治が

得られれば、日本の乳がん死亡率はさらに改善するのではないかと私は思っています。現在、乳がん治療は進行度だけでなく遺伝子や免疫応答レベルで個別化されていますが、そこに患者さんの社会的状況や価値観も織り混ぜて進めていきます。また乳がんを治すための治療と治療の影響を和らげる医療（サポーターブケア）の両輪が上手く機能して成り立ちます。例えば乳がん治療において最も負担とされているのが抗がん剤治療における「脱毛」ですが、当院では全国でも早期に「頭皮冷却療法」を導入し、脱毛予防に取り組んでいます。導入後は非脱毛で乳がん治療を終える患者さんも増えてきており、医療の進歩を感じています。

私達は今、最も乳がんの多い時代を経験しているかもしれません。それでも日本の乳がん診療がより厚く、温かいものであるように輪を抜けていきたいと思っています。

さらに現在、特に中高年女性で習慣飲酒率が増えていますが、乳がんは摂取するアルコールの量に比例してリス

クが高くなります。乳がんの発症予防として肥満にならないこと、習慣的な運動を行うとともに飲酒量を減らすことが有効であると考えられています。外来では「乳がんは若い人になる病気」と思っていました。」としばしば高年齢の方からのお声を聞きます。確かに乳がんは40〜60歳代に多いのですが、高齢の方も増えていきます。さらに現在高齢者の乳がん死亡率は年々悪化しております。これは罹患率が増加しているのと、検診の普及が不十分である可能性、また治療に対し身体的、心理的に受け入れ難い方が多く、その発展の恩恵を受けにくいことが要因として考えられます。



医療法人社団 普照会

井上記念病院

広報誌「いのうえ」
企画編集／井上記念病院広報委員会
発行／井上記念病院
発行日／令和7年月日
〒260-0027
千葉市中央区新田町1-16
TEL 043-245-8800 FAX 043-244-6200
<http://www.inouemh.or.jp>